



問合せ／仙北市企画政策課 ☎ 43-1112

# 新角館庁舎整備に関する 市民説明会について

6月6日から8日にかけて、新角館庁舎整備に関する市民説明会を市内3地区で開催しました。各会場では、これまでの経過と基本設計の概要を説明しました。説明後、質疑応答が行われ、参加者からは新角館庁舎建設に係る様々な意見・要望が出されました。主な内容は下記のとおりです。

<p><b>【角館地区】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日時／6月6日(水)</li> <li>18時30分～19時40分</li> <li>場所／角館交流センター 多目的ホール</li> <li>参加者／市民24人</li> <li>説明者／門脇市長、倉橋副市長、阿部総務部長、大山総務部次長兼企画政策課長、齋藤企画政策課長補佐、田口企画政策課主査、榎佐藤総合計画</li> </ul>	<p><b>【田沢湖地区】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日時／6月7日(木)</li> <li>18時30分～19時36分</li> <li>場所／田沢湖開発センター 大集会室</li> <li>参加者／市民11人</li> <li>説明者／門脇市長、倉橋副市長、阿部総務部長、大山総務部次長兼企画政策課長、齋藤企画政策課長補佐、田口企画政策課主査、榎佐藤総合計画</li> </ul>	<p><b>【西木地区】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日時／6月8日(金)</li> <li>18時30分～19時26分</li> <li>場所／西木総合開発センター 集会室</li> <li>参加者／市民8人</li> <li>説明者／門脇市長、倉橋副市長、阿部総務部長、大山総務部次長兼企画政策課長、齋藤企画政策課長補佐、田口企画政策課主査、榎佐藤総合計画</li> </ul>
--	--	--

- 駐車場 除排雪などに関すること**
- Q** 来客駐車台数が少ないが大丈夫か。(角館)
  - A** 来客用の駐車台数83台は、利用者を想定した試算によるもので、常時満車状態になることはない想定している。
  - Q** 利用者に配慮するなら、建物の前面に駐車場を配置すべきではないか。(角館)
  - A** 土地の有効利用を考慮した結果だが、道路のカーブ中央に建物が位置するため、来庁者が道路から役所の建物が見えるように配置した。
  - Q** 来客用の駐車場が満車になった際には、職員の駐車場も利用できるのか。また、常時、管理人を配置するのか。(角館)
  - A** 来庁者の利用も可能である。駐車場に常時管理人の配置は考えていない。
  - Q** 角館の祭典時の駐車場の確保はどうなるのか。(角館)
  - A** 祝祭日は庁舎の駐車場を観光客に開放する。
  - Q** 冬期間の駐車台数減を見込んでいるのか。また、庇の落雪対策は。(田沢湖)
  - A** 想定している。庇からは基本的に落雪しないよう約1mパラペットを設置する。
  - Q** 駐車場の除排雪をどう考えているのか。建物は雪に耐えられるものなのか。(西木)
  - A** 耐雪帯を設けて対応することにしているが、市民説明会での意見

- 計画全般に関すること**
- Q** 見を踏まえ、より利便性の高いものになるよう、駐車台数の増台、除排雪計画などについて実施設計で十分に検討を行う。また、建物は秋田県建築基準法に定める積雪深により計画しており、安全と考えている。
  - Q** カラスの対策はとられるのか。(角館)
  - A** 電線への対策で激減したと聞いているが、引き続き注視したい。
  - Q** 着工前に、近隣の住民の意見を聞いてもらえるのか。(角館)
  - A** しかるべき時期にそのような機会を設けたい。
  - Q** 出された意見や要望を計画に反映させるのか。(角館)
  - A** 全ての意見・要望に配慮することは難しいが、皆さんからの意見等ができるだけ反映するようにしたい。
  - Q** 実施設計の工事価格が、適正な根拠にもとづくものなのかどうか、十分にチェックをするべきだ。また、入札を行うのか。(田沢湖)
  - A** 積算のチェックは、設計事務所内部の専門積算部門で、ダブルチェックする。また、市では社会人枠として専門職の採用を行っている。入札は、条件付き一般競争入札を想定している。
  - Q** 送迎時の混雑解消のため、角館こども園(以下、こども園)職員車両を園内ではなく、他の場所に駐車できないか。(角館・西木)

- A** 田町山駐車場の区画線引き直して駐車台数の増台が見込めることから、担当課に確認のうえ、こども園職員の一部を田町山駐車場に移動し、園内駐車場の送迎者優先を念頭に検討を行う。
- Q** こども園と公用車出入り口を別にできないか。(西木)
- A** こども園の送迎時間と公用車の出入りする時間帯が重ならないと考えているが、実際の運用を見て混雑がないよう配慮したい。
- Q** 横断歩道はあるが、信号機の設置を検討いただきたい。(西木)
- A** 設置の可否は公安委員会が行うが、協議・検討の時間をいただきたい。
- Q** 大威徳山へハリウッドのような「SEMBOKUCITY」とシンボルを作ってはどうかと考えるかがかか。
- A** アピール効果はあると思う。いろいろ提案があり非常にありがたい。
- Q** 新角館庁舎には樺細工は使用しないのか。
- A** 樺細工の使用を実施設計に取り入れていきたい。
- Q** 老朽化が進む西木庁舎、田沢湖庁舎も工事を行うのか。新角館庁舎の予算を無駄なくして、これらの施設も整備していけるようにしてほしい。
- A** 田沢湖庁舎の耐震補強工事や西木庁舎の改修工事を予定している。しっかりと予算を確定し無駄のないように事業を行っていく。

## まちづくり 日記 No.135

### 『幸せの入り口...』

仙北市長 門脇 光浩

人口減少の対応策を探る中で、幾つかの興味深い資料を目にしています。例えば「田圃回帰がひらく未来」若波ブックレット)。この中で、広井良典さんは次のように記しました。

「江戸時代後半の人口は、約3千万人です。しかし、黒船の来航で欧米の軍事力や科学技術に驚き、富国強兵政策が始まって、一気に人口増加が進みました。日本が最大人口となったのは2004年で約1億3千万人です。以降は人口が減り続け、2050年予測では、1億人を割り込む推計です。シエッタコースターのてっぺんから落ちるような感覚です。だから大変だ！と叫びますが、本当にそうでしょうか。人口拡大で物質的な豊かさ、経済的な豊かさは実現しましたが、かなりの無理を重ねてきた時代といえないでしょうか。24時間戦えといわれ、その挙げ句が過労死です。得たものは多いけれど、失ったものも多かった。いま立っているのは、そうした状況からの転換期で、豊かさや幸せを考えていく、新たな時代への入り口なんじゃないかと考えています。」

幸福の定義は多様ですが、多数の文献に興味深い共通性があります。最も人間的な豊かさレベルが高かったのは、町民文化が開き、政治が安定した江戸時代との記述が多いようです。その他、縄文時代だったとの論調も目につきました。これが弥生時代になると、経済概念が発達し、貧富の差が拡大した結果、争いが絶えなくなったと、そんな分析です。少し時代を遡り過ぎました。前述の広井さんは、こんなこともいっています。「すべてが東京に向かった時代は終焉が始まっています。これは次代の担い手になる学生アンケートで明らかです。質的なポテンシャルの高い地方、生まれた町で可能性を確かめたい、そんな若者が急増し、拡大成長志向から本来の豊かさを追求する風潮へ、価値観は大きく転換しています。」

だとすれば、なおさら地方と大都市の間で、過疎と過密を是正する「国策」が必要で、あわせて地方の強み、特色ある文化や安心なコミュニケーション、農地や森林、水といった財産を維持継承する取り組みが欠かせません。



市立角館総合病院から  
☎ 54-2111  
vol.1

### 新病院の2年目 各科の近況報告にあたって

市立角館総合病院 院長 西野克寛

市民の皆さまの熱いご支援をえた新病院も2年目です。未だに勤務医師不足で不便をおかけしておりますが、最新医療機器等の導入によりワンランク上の良質医療の診療経験も蓄積されており、今回より各診療科の科長から近況や医療情報を連載いたします。

昨年、英国で出版された「The NHS (ライフ・シフト)」100年時代の人生戦略への反響が著しく、日本でも医学会、経営や働き方改革、福祉等まで波及しています。これまでと同様にリハビリ介護福祉を含む包括的医療と救急医療の安定提供のため、研修病院体制維持と医師招聘に鋭意努力をいたします。院長就任後、医師充足は地元大学だけでは無理と判断し、都市圏の大学との人的交流や技術交流を継続してきました。費用が高みですが、命はお金にかえられません。更なる観光促進や医師招聘のために「解体新書記念角館病院」等の呼称もありでしょうか。(杉田玄白記念公立〇〇病院は実在しています)。

この10年の当院が鋭意注力した事業は2つです。1つは、昭和大学横浜市北部病院消化器センター工藤進英教授等との連携です。大腸がん角館研究は仙北市と大仙市に対して世界初

の無料の内視鏡健診を施行しました。消化器診療の検査や治療は県内でも卓越した水準となり、3人の常勤医師制を維持しており、今後も健診事業を推進します。

もう一つは、脳血管カテーテル治療です。元秋田大学放射線科の後藤勝弥医師(DIAMEYカルセンター)に始まり、その関連で神戸市立医療センター中央市民病院や門外不出の和歌山県立医科大学附属病院の技術支援を経て、当院でも5年前に専門医が誕生しております。新病院の画像診断設備の充実によってさらに進化し、破裂脳動脈瘤(くも膜下出血)や脳梗塞等、この分野の高度な救急医療も担当しています。この治療経験を積んだ看護師や放射線技師は秋田県が危機的状況の心臓カテーテル治療に道を開くものです。

今後、さらなる診療の質的向上、当院の長期存続や医師確保(心臓カテーテル治療のない病院に中堅医師は来ない)に努めて経営強化を図り、安心の医療を継続して提供するため、早急に循環器医の常勤化をめざします。

最後に、心筋梗塞予防最新CTソフト(CoScan)と認知症予防M-RINソフト(VSAD)の導入を致しましたので、循環器内科や神経内科にぜひご相談ください。